

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 3月5日

今日は前橋共販所開設66周年の記念市であった。

これは昭和35年に前橋の上小出町で原木市場が開設されて、第一回の市が2月に開催されて以来66周年で、その後木工団地に移り名前も”東前橋木材共販所”となってからは58年目の市となる。その間木材市場の役悪は、様々にその立ち位置が変わってきた。そしてその役割に代るべく、歴代の担当者は使命感を持って勤めてきたつもりである。しかし昨今はまた市場の存在意義が何なのかが問い直されている。

66年前は、森林所有者はしっかりした販売ルートを持たず、馴染みの素材生産業者に立木で販売していた。また製材工場もこうした生産業者の他に、独自に林産能力をもち、自分の工場を使う丸太は、自分の山から伐ってきて使う。なんていうのは当り前の時代に、原木市場が生産された丸太を預かり、正當に検知された数量で入札にかけるとは、まさに画期的な事であった。

しかし66年たって今日の開設記念市では、午前中に出荷者表彰や買い方感謝状の授与が行われ、式典としては型通りに行われたようだが、肝心の記念市の方は閑散としていた。式典に参加された方々も、市場の様子をご覧になって寂しい印象を持たれたのではないだろうか？

極積された材にも、荷降ろしされたままの僅かな材にも雪が”シーン”と積もっていて、土場には誰も居ない。 たった今この場所で”開設66周年記念式典”が開催された事がウソのような静けさだ。 更に今日は素生協の市日もかぶっているので、入札の締切時間には買い方は誰も残っていなかった。

明細書を見ると、材積のまとまった極がほとんど無く、極数も少ない。

田村販売課長が、「いったい何が起きているんでしょう。」と声をかけてきた。

「まあ、年度替わりで、端境期なんじゃないの」と答えたが、それだけじゃないのはお互いによく承知している。 田村課長は最近まで県森連の渋川工場で直送材を受け取っていた立場なので、流通量が全体的に減っている事は肌で感じている訳だ。 コロナ禍があり、ウッドショックが誘発され、更には2024年問題で物流に大きな負荷が掛かる中で、日本の原木市場は大きく揺すられた。 ごちゃごちゃに混ぜ返された後で未だ新しい流通体系が姿を現さないのだから。

前出の田村課長が「そもそも2024年問題なんて何のために誰が提起したのか！」と憤慨していた。「物流のコストをいじればデフレを解消する早道」と考えるのはトランプレベルの陰謀論だろうが、結果的に生活物価は高騰する反面、住宅需要は低迷し木材の製材品市場が冷え込んで居るのを見ると、恨めしくもある。

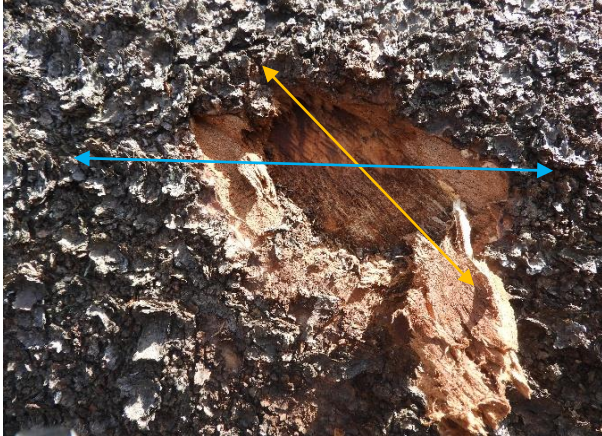
少し救いと言えば、今回の原木市況は応札枚数も多く、次札価格も競っている。 更に前橋で札を入れたら結果も見ないで藤岡の市へ買いに行くところを見れば、原木の生産は今よりもっと多くてもどんどん売れる。 山土場に置いてある材があれば、急いで残らず出荷するべきであろう。 少なくとも次札が競っているという事は、2番札の買い方までは落札価格に達しており、そこまでのキャパシティーがある訳だから、今回の倍は売れる理屈である。

調査日 素材生産協同組合 3月18日

こちらの市では、“上州産優良木材展示市”という事で県森連の“県産材優良素材展示会”に相当する市である。県知事賞を始め多くの材が表彰される。

審査対象には広葉樹も入る為、出荷者はとっておきの材を出品してくる。

今回も沢山の出品があった。特に広葉樹は樹種が豊富で“我こそは！”と言わんばかりの木が並んでいる。今までこれと言った物が出ていなかっただけに「こんな木をどこに隠していたんだ」と言う声がしきりである。とは言っても欠陥の無い木はない。並べてみれば優劣は一目瞭然である。サクラなどは立派だったが、皮が剥けた所に見えた地肌は丸太全体が45度ほど捻じれているのが判る。カシなども太さや通直は申し分ないが、木口を見るとすべて芯の方にシミが入っている。こう言ったシミの事を“ボタンが咲いている”などと言い表す。



サクラの捻じれ

青い矢印は材の方向

黄色の矢印は繊維の流れ



カシの木のしみ

芯から同心円状に黒いシミが

広がっている。(ボタンが咲いた状態)

黒柿は凄いのが出ていた。私もこんな黒柿を見たのは初めてである。



クロガキ(元口)



左クロガキのの末口

落札価格は 1本で 153,000円 立法単価に直して見ると実に $510,000^{\text{円}}/\text{m}^3$ になる。

末口から先でも充分に高価な材が2本も取れたと思われるのだが、どうやらバイオマス燃料になってしまった様だ。推定だが100,000円位が燃料になってしまった。

一般材の市況もまずまずの様だ。以前からの居残り材以外はまんべんなく売れている。価格もまずまずだが、スギの30m材は少し弱め、変わって4.0m材は少し強めに値が出ている。ヒノキは 3.0m・4.0m共に好調だった。

ただ、今回は優良素材展示会という事で、入札者が多く参加していることも好調の一因だろう。いずれにしても、応札枚数が多いというのは良い結果が出るものだ。